

# 平成 22 年度入試の出題意図・採点総評



北九州市立大学

## 一般選抜

外国語学部	・・・・・・・・・・	P 1
経済学部	・・・・・・・・・・	P 5
文学部	・・・・・・・・・・	P 8
法学部	・・・・・・・・・・	P14
地域創生学群	・・・・・・・・・・	P16
国際環境工学部	・・・・・・・・・・	P18

## 推薦入試

外国語学部	・・・・・・・・・・	P28
経済学部	・・・・・・・・・・	P30
文学部	・・・・・・・・・・	P31
法学部	・・・・・・・・・・	P34
国際環境工学部	・・・・・・・・・・	P35

## 平成 22 年度入試の出題の意図、採点総評 <一般選抜>

### ◆ 外国語学部 前期日程（英語）

#### <出題の意図とねらい>

問題 1 は長文読解。時事的問題（地球温暖化）について論じた英語長文を読み、内容を正確に理解できているかを問う。

問題 2 は長文読解。文化的問題（ハーン・ミュージアム）について論じた英語長文を読み、内容を理解しているか（問 1～問 3）、英文を正しい日本語にできるか（問 4～問 5）を問う。

問題 3 は長文読解。科学的問題（医療とコンピューター）について論じた英語長文を読み、文脈をとらえられるか（問 1～問 4）、内容を理解して日本語にできるか（問 5～問 6）を問う。

問題 4 と問題 5 は和文英訳。与えられた日本語の文を正確に英語に訳す力を問う。

問題 6 は英文エッセイ。与えられた英文のテーマに従って、短いエッセイを書く英語力を問う。

#### <答案の特徴と傾向>

##### 問題 1

長文読解。時事的問題（地球温暖化）について論じた英語長文を読み、内容を正確に理解できているかを問う。記号で答えさせる問題で比較的よくできていた。

##### 問題 2

長文読解。文化的問題（ハーン・ミュージアム）について論じた英語長文を読み、内容を理解しているか（問 1～問 3）、英文を正しい日本語にできるか（問 4～問 5）を問う。記号で答えさせる問 1～問 3 は比較的よくできていたが、問 4 の英文和訳は構文をきちんと理解している答案が少なかった。問 5 では、該当箇所を本文から見つけられても、うまく日本語の文章に出来ていない答案が目立った。学力が相当に低下しているとの印象を受けた。問 4～問 5 では、全体のなかでもっとも正解率が低かった。

##### 問題 3

長文読解。科学的問題（医療とコンピューター）について論じた英語長文を読み、文脈をとらえられるか（問 1～問 4）、内容を理解して日本語にできるか（問 5～問 6）を問う。問 1～問 4 の記号で答えさせる部分は一応のレベルの正答率だった。問 5 では、ほとんどの受験生が、「彼女が病気の治療を受けている」と読み間違え、「彼女の医学の研修を担当している」という正答が少なかった。問 6 の英文和訳はおおかた満足できる解答が見られた。

##### 問題 4

長い和文英訳。与えられた日本語の文を正確に英語に訳す力を問う。基本的な語彙力、文法の知識を用いて、正確な英文を書く力が試された。文法的、構文的に正確さを欠く答案が多かった。

## 問題 5

比較的短い和文英訳 2 問。与えられた日本語の文を正確に英語に訳す力を問う。できてない答えは、英語文型について理解が欠ける答え、日本語の意味がわからない答案に集約される。たとえば、後者では「銘記する」を「書く」と解釈した受験生がいた。一方、できた答えは、英語の意味範囲に近づくように日本語の意味をやさしく言い換えることができた受験生のものだった。

## 問題 6

与えられた英文のテーマに従って、短いエッセイを書く英語力を問う。正しい英文を書いている人は多かったが、質問に直接答えている答案が少なかった。「日本の」アニメの「特徴」に言及している答案には、多少文法的な誤りがあっても高い得点を与えた。

## ◆ 外国語学部英米学科 後期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

#### 問題 1

##### 問 1

英文は比較的易しく読めて、分量もそれほど多くないため、全体の内容を如何にまとめて整理して述べることができるかを問うものである。

##### 問 2

環境保護と開発という大きな今日の社会的テーマであるので、高校生にも当然関心が強いと思われるが、特に生態系というものに限定して、いかに個人的な関わりで述べられるかという点を見る。

#### 問題 2

未成年の喫煙、飲酒が社会問題となっている今日、その販売の規制の拘束力に対しての意見を問うものである。英語そのものの表現力はもちろんであるが、文章の構成の仕方、論じ方を見るのが目的である。

### <答案の特徴と傾向>

#### 問題 1

##### 問 1

内容に即していない解答がしばしばみられたが、概して出来は悪くはなかった。注に出ているにもかかわらず、オランウータンを、オラウータン、オラオウータンと訳している等初歩的な言葉を知らないのかと頭をひねるような解答もしばしばあった。

##### 問 2

環境と経済発展という話題性のあるテーマであるために、解答のほとんどが新聞の記事のような内容になっており、個人に引きつけた考えを述べている解答が少なかった。論じ方は概して整理されている答案が多かった。

#### 問題 2

繰り返しの内容が多く、発展的な展開になっていない、また全体的にオリジナリティがあまり感じられない傾向にある。また文章の構成の面では論理的な構成になってない答案が多く見られた。

## ◆ 外国語学部中国学科 後期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

問1ではテーマについての要約、問2では事例をあげて自分の考えを述べる設問にし、受験者の考えをまとめて論述できる力と思考力を問う小論文形式にした。

#### 小論文のテーマ

人間社会を考察するテーマとして「儀礼と現代社会との関係」についての問題を取り上げた。

「儀礼」にはそこに関わる人々のコミュニケーション、社会的価値や必要性、異文化理解などの問題が存在する。このテーマは今後、言語を学び異文化理解やコミュニケーションを通じて国際社会で活躍する人材を育成することを目指している本学科の教育分野に関する思考力を問うことができると考える。

#### その意図

生活に身近に存在している「儀礼」を通して現代社会と人間の内面についての観察力や考え方及び問題意識を問うている。

### <答案の特徴と傾向>

全体的な傾向として、各問400字の与えられた字数を有効に使うことで論述されていた。

#### 問一

近代社会における「合理化」と「呪術からの解放」との関係について問題文の内容を要約する問題である。

「合理化」と近代社会における儀礼主義に関しての言及や問題文全体を要約した論述が多く、論点が絞られていない解答が見受けられた。

#### 問二

「儀礼」が現代社会の中で持つ意味について、具体的な事例を挙げて受験生の考えを答えさせる問題である。現代社会と人間の内面を深く掘り下げて考察し、それを論理的に組み立てて述べるという設問である。

事例として挙げられたものはほとんどが冠婚葬祭に関するものであった。そこから日本の伝統文化や宗教との関わりについて論じたものが多数を占めた。小論文対策用の解答が多く、論理明快ではあったが、自分自身の内面を考察した、独創的な解答や海外に目を向けた解答がやや少なかったことは否めない。

## ◆ 外国語学部国際関係学科 後期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

資料として、歴史的事実とその伝承を扱った二つの文章を取り上げた。問1では、筆者が主張する内容を的確に読み取る力を備えているかどうかを確かめることをねらいとした。問2では、2つの資料の論旨を踏まえた上で、歴史を「正しく」理解するときに必要なリテラシーについて自分なりに考え、論じることのできる力を備えているか、また的確な文章表現力が身につけているかをはかることとした。

### <答案の特徴と傾向>

#### 問1

資料1 人々のアイデンティティが歴史によってつくられることを述べ、そのゆえに国家や個人、団体が歴史を監視・統制しようとすることをきちんとおさえたいうえで、ジャンヌ・ダルクやミシュレの事例が述べられていれば、おおむね正解であり、文章のまとまりで評価をわけた。要約する際にジャンヌ・ダルクの事例

の内容を読み誤ったり、アイデンティティと歴史の監視・統制の関係に気づかないまま、資料中のキーワードだけを使って答案を作成したものが散見された。

資料2 プリマス植民地のイメージに神話と無意識の思い込みがあることが示され、過去の事実というより後世の人間が勝手に信じ込み、作り上げていった面があることを説明した上で、レーガン演説に見られる混乱を指摘し、自由の国アメリカのイメージを確立するために人々がプリマスのイメージを用いていったことが述べられていれば正解である。この資料での神話が国民として共有する理想であることに気づいたかどうか、レーガンの演説をうまく答案中で位置づけられているかで、よくできた答案とそうでないものとの違いが現れた。

問2 この設問は、資料を踏まえた上で、自分の考えを述べることが求められた。資料1と資料2は、国民としてのアイデンティティ構築のために過去の出来事の物語化・神話化が行われることを示した文章である。この二つの資料では歴史への見方が異なっており、資料1では歴史解釈や歴史教育への監視・統制が、資料2では現在の人々の思い込みが強調されている。資料間の違いがわかったうえで作成された答案は少数であり、そうした答案が高評価を得た。資料の著者の主張を十分に理解しなかったり、資料で示されている内容を答案で十分に表現しないままに自分の意見を述べたりしているものは、評価が低くなった。

## ◆ 経済学部 前期日程（英語・数学）

### 《英語》

#### <出題の意図・ねらい>

問題 I,II は長文読解問題。

#### 問題 I

- 問 1 連続する副詞節の意味のつながりを正確に読み取る力を見る。
- 問 2 基本的語彙の知識があるか、文構造の分析が正確であるかを見る。
- 問 3 人称代名詞の指示対象を特定する力、倒置文の構造を理解しているかを見る。
- 問 4 名詞句の具体的内容を明らかにする力を見る。
- 問 5 前後の文脈から、適切な語彙を特定する力を見る。

#### 問題 II

- 問 1 同一語句の繰り返しが直後にあることに注目し、内容をまとめる力を見る。
- 問 2 文中の語彙がどのような意味をもつか、文脈から判断して、読み取る力を見る。
- 問 3 やや複雑な英文の内容を理解する力の有無を見る。
- 問 4 等位節間の意味のつながりを正確に把握する力を見る。
- 問 5 本文で述べられている内容を把握し、制限された文字数で述べる力を見る。

#### 問題 III、IV

III は平易な日本語文を英語に訳す力を問う問題。IV は前後の文脈から、文意を考慮して、英語に訳す力を問う問題。いずれも語彙選択の適切さ、文法的な正確さなどを見る。

#### <答案の特徴と傾向>

#### 問題 I

現在の日本の社会状況を題材とする長文の読解問題。問 1～問 3 は英文を日本語訳する問題だが、基本的語彙の知識と文構造の理解が求められた。同時に、英文の主張内容を十分に把握できたか否かで、得点差が出た。問 4、問 5 は確実に答えている答案が多かった。

#### 問題 II

地球規模の気候変動を題材とする長文の読解問題。問 1 は下線部の直後に述べられている内容を要約できれば、得点できた。問 2～問 4 は英文を日本語訳する問題だが、内容把握が十分でなく、日本語の文意が明確でない答案が一部にあった。問 5 は解答の日本語文字数が指定されているため、的確に要旨をまとめることが求められた。

#### 問題 III, IV

直訳ではなく、文意をうまく捉えて英訳することが大切だが、基本的な文法が維持されていない答案は十分な得点を得られなかった。簡潔で、的確な文構造を用いた英文訳の答案が高得点だった。

## 《数学》

### ＜出題の意図・ねらい＞

本学の数学入試では、基本的な問題が出題されています。いわゆる難問は出題されません。基本的な定理や公式の理解力と論理的な思考力を試すのがねらいです。単なる暗記力や計算力よりも、問題の分析能力と的確な判断力や工夫する力を見るのがねらいです。また、出題の範囲に十分注意してください。

### ＜答案の特徴と傾向＞

#### 問題 1

小問(1)は数列の和から一般項を求める問題でしたが、和の差から一般項を求めるのではなく、等差数列であるという条件を明記していないにも関わらず、等差数列であることを前提にして計算する答案が多かったです。小問(2)は小問(1)を利用して解く問題で小問(1)が出来ていれば解ける問題です。小問(3)は分数の扱いに慣れていないと思われる誤答が多くありました。小問(4)の正解答案は大変少なかったです。等差数列と等比数列の積を求める問題ですが、それぞれの数列の和を先に出しその積を求めるという間違った答案が多くありました。

#### 問題 2

この問題は、定積分をきちんと理解しているかを問う問題でした。全体としては、よく理解している人とほとんど手がつけられない人の両極端にわかれていると感じられました。また、答案の書き方に慣れていないのか、単に式を書きならべるだけの答案が多くみられたのが残念です。小問(1)は、比較的良くできていましたが、計算ミスが多く見受けられました。小問(2)は、定積分の値が定数になるということが理解できていない答案が見受けられました。小問(3)は、定積分であらわされた関数を微分すべきところを積分してしまうという答案が見受けられました。

#### 問題 3

小問(1)については余弦定理適用により簡単に求めること問題で、正答率は高かったです。小問(2)は三角形の垂心を求める問題で、2 辺の垂直条件により連立方程式とすることにより求めることができ難易度は高くないと思われませんが、正答率は低かったです。小問(3)も小問(2)と同様に外心の定義により連立方程式として解く解法と定点からの距離が等しいという条件から解く方法があり、後者による解答が多くみられましたが正答率はそれほど高くありませんでした。

#### 問題 4

小問(1)(2)(3)は基本的な計算ですが、文字を使って計算することに慣れていない答案が多く見られました。小問(4)は確率の計算に慣れていないと少し戸惑ったかもしれませんが、基本に忠実に場合分けを考えて計算することが重要です。小問(5)では、計算間違いをしている受験生が多く見受けられました。問題 4 の確率計算では、数え上げて確率を求めるだけでなく順列や組合せを使い、場合分けを考えて確率を求める練習が不足していると感じられました。教科書の基本を十分理解し、基本的な練習を積み重ねることに心がけましょう。

## ◆ 経済学部 後期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

この小論文のねらいは、長文を的確に把握し、筆者の主張を正確に理解できる能力を見ることである。問題文中に提示されている専門的な用語を、意味を踏まえて、適切に使用できることが求められている。

特に、設問2では、解答する者の状況設定に応じた論述をする必要があり、その際の独創性や、設定と論述の間の論理性の程度が問われるものとなっている。

### <答案の特徴と傾向>

設問1では、「スキーマ」、「活性化」、「文脈」のキーワードを全て使用したうえで、内容を適切にまとめているかどうかを見た。全体的にはよくまとめられた答案が多く、文脈を適切に把握している者が多い印象を受けた。

設問2は、「この記事の文脈について」論述しなさいというものであったが、記事そのものの論述というよりは、あらかじめ用意した自分の主張を展開している答案が散見された。問題の意図を正確にくみ取った答案と、そうでない答案の間で、点数に大きな差がついた。

全体として、与えられた設問の枠組みのなかで、論理展開する力をもう少しつけていくことが必要かと思われる。

## ◆ 文学部比較文化学科 前期試験（総合問題）

### <出題の意図・ねらい>

グローバル化した現代社会で、現代人は必然的に世界の多様な価値観、ライフスタイルと関わってくる。比較文化学科では、異文化を正しく理解するとともに、日本文化を世界に向けて発信し、文化の交流をすすめていく必要がある。そのために、文化へ多角的なアプローチができて、ボーダーレス時代の知性をもった学生が望まれる。入試問題はそのような学生を選抜するのがねらいである。

世界からの人種のるつぼであると言われるアメリカでありながら、合衆国史上、白人以外の大統領は誕生してこなかった。2009年は、初めて有色人種の大統領が誕生した画期的な年であった。そのオバマ大統領の就任演説を英語の問題として出題した。

様々な文化を理解しようとする際に求められるのは、柔軟な思考力である。柔軟な思考力を試すことが出題の意図である。

また、語彙力と文法については、単なる知識としてのみならず、前後の文脈から推測する力を求めた。全体的に、長文を筆者の論理を追って読み取る力、さらに理解したものを簡潔にまとめ、かつ説明する文章力を試した。

さらに、現代文においては、特殊な思考ではなく、常識的なものの考え方が身についているかどうかを問うている。

### 問題 I

#### 問 1 【英文読解力・文章を整理する力】

英文を正しく理解し、日本語に訳し、重要なポイントにまとめる力を試した。

#### 問 2 【語彙力・文脈を読み取る力】

英語の持つ多様な意味を正しく理解し、かつ前後の文脈からその意味を正しく理解する力を試した。

#### 問 3 【英文読解力・日本語の文章力】

世界中のから集まってできたアメリカ合衆国を一つにまとめる大統領の理念が唱えられているところをうまく読み取り、日本語に直していく力を試す問題である。

#### 問 4 【選択問題・文法力・文脈問題】

前後の文章から空欄に当てはまるもっとも適する語彙を想定できるかどうかを試した。とくに、対になる語に気づく文法力問題だけではなく、前後の文脈を理解しないと最適な語を選択することはできない問題である。形容詞の比喩表現を読み解いた上で、対応している文章部分に気付くことができるかどうかを試した。

#### 問 5 【記述問題・文法力・読解力問題】

アメリカ合衆国の建国の理念と価値観を論理的に理解し、論証して、それによって導かれている結論部分が指摘できるか試す問題である。

#### 問 6 【記述問題・文法力・読解力問題】

演説の意図、国民の訴えたいポイントが読み取れるかどうかを試す問題である。そして、文章の論理・主題について、具体例を使って説明する力があるかを試した。

#### 問7【読解力問題】

英文読解力だけでなく、アメリカの人種問題を正しく理解して、最適な語彙の意味を、前後の文脈から類推することができるか試した。

#### 問8【選択問題・文法力・文脈問題】

前後の文章から空欄に当てはまるもっとも適する語彙を想定できるかどうかを試した。とくに、対になる語に気づく文法力問題だけではなく、前後の文脈を理解しないと最適な語を選択することはできない問題である。

#### 問9【読解力・日本語文章力問題】

語彙力と読解力を試し、日本語の文章力を試す問題である。

#### 問題II【日本語読解力・英語作文能力】

英作文は、英語の単語や英文法を知っているだけではかけない。日本語の文章はそのまま英語に訳すことはできないので、いったん、英語の構文に似た日本語文に変える必要がある。その作業を怠って、直接英文を日本語に訳そうとすると、へんてこな英文にしかならない。英語の語彙や英文法や英語構文の力だけでなく、日本語を英語のような構造へ変換する力が必要である。

#### 問題III【日本語現代文（長文）の読解と把握能力】

##### 問1【漢字の書き取り】

奇抜な熟語ではなく、日常的に使われている単語をきちんと把握しているかどうかを問うている。

##### 問2【単語の意味】

平易な日常的に使用されている言葉の意味を、正確に把握しているかどうかを尋ねている。単なる言葉の意味だけではなく、文脈をきちんと読む能力も試されている。

##### 問3【表現の意味の把握】

問題文中の表現を、問題文の文脈に即して正確に把握できているかどうかを問うている。

##### 問4【記述の把握とその説明】

問題文中の表現の意味をきちんと把握し、それに対して自分の言葉での説明が出来るかどうかを問うている。字数制限の設問にしなかったのは、回答欄に示されているスペースにきちんと考えをまとめて答えられるかどうかを試している。これは単なる字数制限を設けての設問より、スペース内に書けるように考えをまとめる、きちんと答を記述することを考えて回答することが試されているのである。

##### 問5【表現の把握】

単なる問題文中の記述の把握ではなく、問題文全体を把握した上で、問題文の表現の意味が問われている。

#### <答案の特徴と傾向>

問1 “a crisis” が意味している内容を遺漏なく書けている解答が極めて少なかった。単語では、hatred, enemy, threaten, strengthen, our planet の意味を間違えた解答が目立った。それ以外の単語は大方、正しく訳せていたが、英文の構造の理解がまだまだ不十分な解答が多かった。また、不自然な日本語を書き連ね

た解答も目立った。

問2 個々の単語の翻訳のみならず、日本語の文章として文脈に沿って意味が通じるかがポイントである。  
‘challenge’ ‘met’ を「難問」「ぶつかる」と消極的に訳した答案が目立った。

問3 正解の割合は1割以下だった。「We gather because」の箇所、gatherを他動詞と解釈し「集める」とする誤訳、becauseを原因・理由でなく目的を表すと解釈して「・・・するために」とする誤訳が目立った。  
「We have chosen」の第二の目的語「,unity of purpose over conflict」をgatherの目的語として訳出する例も少なくなかった。

問5 these truths が指す内容を具体的に問う問題。答えは先行する文章の中に見つけることができるので、そこに列挙されている8つの語彙を和訳できるかどうかで得点が分かれる。patriotismの意味が一番分からなかったようで、「愛国心」と訳すことができた答案は10%に満たなかった。

問6 該当部分の構文が把握できなかつたために、説明文として意味が通らない、または反対の意味になってしまっている例と、‘duties’を‘dirty’、‘nation’を‘nature’と取り違える初歩的なミスによる不正解の例が非常に多く、正解率は5%以下であった。

問7 日本語訳の問題だが、oathの語彙が分からないために、「オアシス」と誤訳した答案が目についた。take oathで「宣誓する」という意味である。問題の意図は、仮定法過去完了のmight not have been...の理解度を問うことであったが、正解率は10%以下であった。比較的に長い文章のため、文意が通じない和訳が多くあった。

問8 選択問題であるが、正解率は1割程度と低かった。

問9 日本語訳の問題だが、virtueを「仮想」あるいは「価値」など、他の単語と取り違えた誤訳が目立った。全体として、単語力不足による不完全な答案が多かった。

## 問題II

(1) まず、圧倒的に英単語の力が不足している。そして基本的な英語構文を知らない。さらに英文法を知らないで英作文をしようとしている。

(2) weakness や strength などをはじめとする基本的な単語が書けていない答案が多かった。三人称の場合にsをつけるといった最低限の文法事項をおさえていない答案が目立った。英語をそのまま訳すのではなく、日本語の意味を踏まえた上で英語に訳す工夫が欲しかった。

## 問題III

問一 常用する漢字を問う問題であり、正答率は60パーセント程度。誤答が多かったのは同音異義語がある③「自体」であり、次に①「便宜」の誤りが多かった。

問二 慣用的な表現の意味を問う問題。A「場当たり」、B「まっとう」の誤答が多かったが、他は比較的正答率は高かった。

### 問三

(a) 「概念的に処理」することの本文における意味を問うた。正答は③であったが、①で誤る解答が多かった。「概念」などの、現代文に頻出する抽象的な語彙に慣れていない傾向がうかがえた。

(b) これも本文の表現を問うたもの。正答は①であったが、③で誤る解答が多かった。③よりも、より適切に内容を説明しているものが正答である。

問四 文中の「丸めて考えられるようになる」の「丸めて考え」る事がどのような意味を持つのかの説明を求める設問であったが、感覚的には違和感を覚えることが、違和感なく把握するのは概念的に把握するようになるからであるという解答が多かったが、直接に「丸めて考え」ることはどういうことかへの回答は少なかった。

### 問五

本文の表現を、前後の関係から読み解く問題。正答は①であり、比較的よくできていた。

## ◆ 文学部人間関係学科 前期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

文章1は、10代の若者を対象に、対立（conflict）の場面で生じる怒りをコントロールし、対立を平和的に解決するソーシャルスキルを育てるためにアメリカで開発されたプログラムを掲載した冊子の序の部分である。

文章2は、アメリカのゼロトレランスの施策について、その理論的背景と運用の実際、その効果などを、明確に賛成の立場に立って紹介した文章の一部である。

### 設問1

この図（figure）の意味を説明するためには、文章1、1頁の“CONCEPTUAL FRAMEWORK”のグラフに関する正確な理解が必要不可欠であり、基本的な英語の読解力をみることをねらいとした。

### 設問2

ここでは3頁3行目の “An effective plan・・・” 以降の内容を正確に読みとって、この冊子で提起されている暴力予防の基本的な施策をまとめる力をみることをねらいとした。

### 設問3

文章1と文章2は必ずしも真っ向から対立する論というわけではなく、文章1でも、3頁の最後の2行には「暴力的行動に対するゼロトレランスも含めた、明確で一貫した行動への期待を確立すること」と記述されており、文章2で強調されているゼロトレランスの考えも組み込まれている。しかし、文章1が学校やコミュニティでの暴力問題に対して、10代の若者の社会的スキルの育成を中核とした多面的な施策を提起しているのに対して、文章2では、ゼロトレランスの施策が学校の「正常化」の万能薬として描かれている。

また、文章1では暴力を振るうリスクのある青少年を社会的スキルが欠如した青少年として捉え、その社会的スキルの育成に最も主眼を置いた対応を考えているのに対して、文章2では、そのような若者を「悪徳非行生徒」と呼び、「学校からの排除」によって他の生徒の学習権を守ることの重要性を強調している。その意味では、「暴力的な問題を抱える生徒」をどのように理解するのか、また、その対策としては、暴力から離

れていく社会的スキルの獲得を指導の中心に置くのか、問題行動への厳しい処罰に主眼を置くのか、という点に明確な見解の違いを読み取ることができると考えられる。

受験者には、二つの文章の見解の違いをしっかりと読み取った上で、学校における荒れや暴力の問題を解決していくための施策について、説得力のある見解を展開できる力をみることをねらいとした。

### <答案の特徴と傾向>

内容に関連性のある英文と和文の問題文を記載しているが、特に英文の読解力が問われる出題である。そのため、鍵となる単語を文脈に沿って適切に訳すことができれば、適切な解答となる。しかしながら、和文の内容のみに依拠して解答する傾向があり、設問の趣旨に十分に答えられていない解答が多く見受けられた。

また、解答の中で使用している漢字に間違いが多くあった。

## ◆ 文学部比較文化学科 後期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

#### 問題Ⅰ

読書と言語能力や理解力の関係を論じた文章を出題した。

問1 提示された文章の重要点を的確に把握する読解力と、それを理路整然とした文章でまとめられる文章力を問うため、読書による書き言葉の訓練にはどのような意義があるのかを制限字数内で要約する問題を課した。

問2 筆者の論を踏まえた上で、読書にはその他にどのような効用があるかを述べさせる問題を課した。読書の重要性について深く考えることができるか、またそれを論理的かつ説得力のある文で表現できるか、思考力と文章力を問う問題である。

#### 問題Ⅱ

俳句をキーワードとして与え、そこから自由にエッセイを書かせる問題である。わずかな言葉を出発点として、自由な発想で自らの思考を展開する能力があるか、またそれを他者に的確に伝える表現力・文章力があるかを問う問題である。

### <答案の特徴と傾向>

#### 問題Ⅰ

##### 問1

筆者の考えを要約する設問であるが、筆者の論のごく一部を取り上げ、それを何度も繰り返して字数稼ぎをしているような答案がかなり多く見られた。また、書き言葉＝文語体＝漢語という誤解をしている解答も複数見られた。問題文全体を的確に理解している解答が高得点を得ている。

##### 問2

「想像力を豊かにする」「他人の気持ちを思いやる心が養われる」「視野が広がる」といったワンパターンな解答が多かった。また、読書＝小説と固定的に考える傾向にあった。

#### 問題Ⅱ

俳句を読んで、自由にエッセイを書くことを求めた。意図としては、短い表現、わずかな言葉から、どれだけのイメージを膨らませられるか、そして、それを基に思考を展開し、表現することができている

かを問うた。全体の印象としては、与えられた俳句に真摯に向き合い、自らの経験や知識、そして想像力で表現できている解答が高得点を得ている。一方、低い得点のものは、俳句そのものからも離れ、定型的な一般論（文化論、社会論）に終始してしているものであり、非常に残念であった。普段からさまざまな文章に慣れ親しんでいるかどうかもまた、解答の出来を左右していたと思われる。

## ◆ 文学部人間関係学科 後期日程（集団面接・グループ討論）

### <面接の意図・ねらい>

自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、また集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力を有する人材の選抜を行う。

なお、討論テーマはあくまでも討論のために設定されたもので、それ以上の意図をもつものではない。

### <受験生の特徴と傾向>

集団討論のグループによって議論展開の違いはあるものの、全体を通して活発な議論が展開された。また、時事問題や国際問題に関するテーマに関しては受験生の知識にバラツキが見られた。中には討論テーマの本質的に迫りきれず、論点が外れてしまったグループもあった。

## ◆ 法学部 前期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

出題文の出版は、山岸俊男『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』（集英社インターナショナル、2008年）である。

筆者は、日本社会の変化、つまり「安心社会」の希薄化（崩壊）の中で、これから日本人がどのような行動を取っていけばよいかということを本書全体で論じている。これまで日本社会の特質であった「安心社会」（メンバー同士の相互監視や制裁といった仕掛けを通じて、人間同士の結びつきの不確実さを解消していこうとする社会。ウチの人間による集団主義を基調として秩序維持を図る社会）が大きく変質し、社会の都市化・流動化・大規模化が進むにつれ、「信頼社会」（社会が提供する「安心」に頼るのではなく、自らの責任で、リスクを覚悟して他者と人間関係を積極的に結んでいくことで秩序形成を図る社会）に変わっていかざるを得ないし、そうなることのメリットは大きいことを論じる。そして、こうした信頼社会への移行の中で、日本社会、日本人がどのような課題を抱えているのかを明らかにしている。

出題文は、こうした本書の論旨展開の基礎となる調査結果を示した部分である。一般的には、筆者が言うように、集団主義を基調としてきた安心社会が、伝統的に日本社会の特徴であったことから、日本人そのものも「みんなで一緒」という信念を持つ集団主義者であると考えられてきたし、集団主義者として行動することのよし悪しが論じられてきた。集団主義者としての側面が、経済成長をもたらしたこと、または犯罪が少ないという安心をもたらしたというよい点がいわれる一方で、日本人は主張をしないとか、あるいは業界などの護送船団方式の蔓延あるいは国際競争力の低下といった問題も指摘される。

筆者は、日米の調査から、従来の「日本人＝集団主義者」というおそらく常識的であろうと考えられる理解とは大きく異なって、「日本人は実は個人主義者だ」という調査結果を示している。受験生が、筆者の調査結果及び見解を理解し、そこに提示される「個人主義」だとか「他者の信頼」といった素材をもとに、それらについての自身の解釈をいかに展開できるかを問うことが本設問の目的である。

### <答案の特徴と傾向>

設問は、筆者の示す調査結果に関する見解を要約し、それに対する受験生自身の意見を述べることを求めている。筆者の主張を十分理解したうえで、自論を展開することが必要である。

要約については、筆者の見解のポイントを十分押さえられている答案が比較的多かった。文章読解については比較的できていたといえる。一方、受験生自身の意見については、筆者の見解に対して賛成するもの、筆者の見解に対して反対するもの、筆者の使用する概念の定義に関して問題を指摘するもの、など様々なものが見受けられた。ただ、いずれにおいても、身近な事例を用いるなど一定の工夫が見られたものの、具体性に欠けていたり説得力がなかったりする答案が少なからず見受けられた。中には、それほど多くはないものの、筆者の主張の前提となる調査（実験）内容の問題点を指摘するなど、独自の論点を展開できている答案もあり、そうした答案は比較的高い評価を得た。

また、全体として誤字及び脱字が目立った。出題文中にある用語にもかかわらず、誤記するものがあったり、比較的好くできていた答案にも誤字脱字があったりしたことが、とくに残念であった。

## ◆ 法学部 後期日程（面接）

### <面接の意図とねらい>

法学部では、一般選抜後期日程試験において、面接による選抜試験を実施している。面接を実施している理由は、単にセンター試験の成績のみで入学者を選抜するのではなく、目的意識や社会的問題関心などを問うことにより、勉学への意欲と幅広い素養を持った学生を選抜するためである。したがって、面接にあたっては、①受験生の入学意欲や将来の抱負などを含む志望動機、②法学部学生として必要とされる一般的知識と社会的問題関心及び論理的思考力、③面接試験におけるプレゼンテーションのやり方やコミュニケーションの能力などを評価している。

### <受験生の特徴と傾向>

面接試験では3問が出題された。第1問目は、本学法学部の法律学科あるいは政策科学科を志望した理由についての問いであった。本問については、受験生の側でもあらかじめ予測していたようであり、そつなく答える受験生が多かった。しかし、その多くが、大学案内等の記載内容を暗記し、棒読み的に答えるものであった。他の2問は、受験生の社会的問題関心、論理的思考力と表現力などを評価するための、社会問題に関する質問であった。ひとつは「外国人労働者の受入れ」問題についてであり、もうひとつは「成人年齢の引下げ」についての問題であった。第2問目の「外国人労働者の受入れ」問題については、一定程度の関心を持っていたと認められる。ただ、わが国の最近の人口減少や高齢化を反映して、職種の拡大などを含め外国人労働者の受入れに肯定的な意見を述べるものが多く見られたが、その理由を説得的・論理的に述べるものは必ずしも多くなかった。受入れに否定的な意見を面接担当教員から提示すると、その意見にも同調し、自己矛盾に陥ったまま、説明に窮するものも見られた。否定的意見を述べるものに関しても同様の傾向が見られた。第3問目の「成人年齢の引下げ」は、法的に大人として扱われるのは何歳からが適当と思うかを問うものであった。個別の問題（選挙権、民法の成年年齢、少年法等）の賛否についてはそれなりに述べることができていたが、全体としてどのようにあるべきかに関する自らの意見を説得的・論理的に展開することができたものはあまり多くはなかった。最後に、面接の態度等については、例年と同じく、面接の際に緊張してうまく話せなかった受験生と、淡々と話す学生との差は大きかった。自分の言いたい内容をうまくまとめ、表現することができない受験生に対しては、面接担当教員が答えを引き出すよう配慮したが、それでも考えをうまくまとめることや表現することができない受験生もいた。プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を一層充実することが望ましい。

## ◆ 地域創生学群 前期日程（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

今回の出題文は地域創生に関連した文章の中から、次の3点を念頭におきながら選定しました。1点目は、地域創生やまちづくりについて考える上で重要となる「人と人とのつながりのあり方」に関連した文章であること、2点目は、一般選抜であることを考慮して一般的かつ平易な文章を選定すること、3点目は、受験生が解答するにあたり、地域が抱える問題や課題を自分自身に引きつけて深く考える余地のある文章であること、という3点です。

そして、複数の候補を検討した結果、大沢真理・中野敏男・森まゆみ・川本隆史「シンポジウム（四酔人経論問答）」、越智貢他編『応用倫理学講義4』岩波書店、2005年、の当該箇所が、上記選定基準に鑑みて最も適当であると判断し、出題文として選定した次第です。今回の出題文では、地域活性化のために必要とされる人材像がテーマとなっており、全体を通して、地域活性化のための条件や、地域の抱える問題や課題、乗り越えなければならない壁、そして、それを解決するために求められる人材のイメージが、具体例を交えながら分かりやすく述べられています。したがって、地域創生学群を志望する受験生であれば、どのコースを志望する者にとっても、地域に対する自分自身の日頃からの問題意識を問い直させることにつながるものと判断しました。

設問では、出題文全体の内容をふまえながら、①地域に必要とされる2つのコーディネーター像をまとめること、②自分の住む地域の課題解決に求められるコーディネーターの役割について具体的に述べること、という2点を求めています。

①の部分については、出題文で述べられている地域の活性化に向けた課題をくみ取った上で、2つのコーディネーター像についてまとめる必要があります。まず、地域の活性化のためには護っていくことと流動化の両面が必要であること、異質なものが入ったときにコミュニティに反発が起きること、新住民に対するコミュニティへの協力・協働の要請や旧住民に対する環境教育が必要であること、といった点を読み取ることができれば、1つ目の「新旧の住民をつなぐコーディネーター（もしくは、人と環境のコーディネーター）」を導くことができるはずですが、次に、異世代間交流やその中でさまざまな年代の持つリソースを活かすことが必要であるといった点を読み取ることができれば、2つ目の「世代間のコーディネーター」を導くことができるはずですが。概して、①では、解答者の基本的な読解力をはかることに重きが置かれています。

②の部分については、①の内容をふまえて、自分の地域の実情について簡潔に述べた上で、コーディネーターの役割を具体的に述べているかをみており、日頃から地域に関する問題意識を持ち、客観的かつ論理的に思考することができているかを試しています。なお、当然ですが、論理的思考能力や説得力は、解答文の全体を通じて評価されることとなります。

### <答案の特徴と傾向>

上述のように、設問では、出題文全体の内容をふまえながら、①地域に必要とされる2つのコーディネーター像をまとめること、②自分の住む地域の課題解決に求められるコーディネーターの役割について具体的に述べること、という2点を求めています。しかし、その両方について言及せず、①についてのみ、あるいは②についてのみ解答している答案や、設問の内容とは関係のない内容に終始している答案も少なからずありました。小論文の試験ですから、設問の内容をしっかりと読み込み、設問で求められている内容には全て答えるのが最低限の基準となります。また、字数の配分については、設問の内容や上述した出題の意図からも分かるように、①の部分が6〜7割、②の部分が3〜4割というのが理想的な字数バランスになります。

①については、「全体の内容を踏まえながら」、「まとめなさい」という設問文の表現からも分かるように、特に読解力が求められています。したがって、出題文全体の内容から、「地域の活性化には安定性と流

動性の両方が必要であり、その両者を地域内で成立させるためには排除性という問題を解決しなければならない」ということ、また、「地域というものは様々な世代で構成されているほうが活性化しやすいが、現状としては多種多様な属性の人的交流が生じにくい状況にあるため、多様性を生かすような発想の転換が求められている」ということ、といった背景をしっかりと読み取れているかどうか 중요합니다。その点に触れた上で、2つのコーディネーター像についてまとめることが必要となります。このようなことができている答案や、その努力が見られる答案については高い得点がつきました。しかし、全体の内容や、コーディネーターが必要とされる背景については全く触れず、出題文を単純に引用する形で、何の脈絡もなく唐突かつ短絡的に、コーディネーター像がごく簡単に記述されている答案が数多く見られました。また、2つのコーディネーターのうちの1つにしか触れていない答案や、2つのうちの1つを読み違えている答案なども見受けられました。

②については、日頃から地域について深い関心を持っているかどうかポイントとなっており、受験生自身が感じた地域の様々な問題の中から、今回のテーマに関連する事例を取り上げ、その解決に向けたコーディネーターの具体的な役割をイメージできるかどうか重要です。したがって、自分の住む地域の問題を簡潔に述べた上で、①の内容を踏まえつつ、その課題解決に向けて求められるコーディネーターの役割を具体的に述べることができている、説得力のある答案には高い得点がついています。全体的な傾向として、地域の抱える問題については、ある程度しっかりと書き込まれていました。しかし、地域の課題を説明するために必要以上に字数を費やしたため、ここで問われているコーディネーターの役割が明確に論述できていない、または、それが述べられていない例など、肝心の部分が抜け落ちている答案も目立ちました。

全体的には、得点の伸びなかった例として、①と②の文章量のバランスが著しく逆転した答案が数多く見られました。その要因として、設問文を十分に理解しないまま解答したケースや、あらかじめ自分なりに準備してきた内容に無理に答案内容をつなげてしまったケースなどが考えられます。したがって、小論文の基本に立ち返ること、そして、ある程度の柔軟性を持って論述することが望まれます。一方、出題文で議論されている地域の活性化に関する大前提やコーディネーターが必要とされる背景について触れつつ、その内容と関連させる形で2つのコーディネーター像についてまとめ、地域の抱える課題とその解決に求められるコーディネーターの役割へとバランスよく展開された答案もありました。当然ながら、そのような答案には高い得点がつきました。

## ◆ 国際環境工学部 前期日程（理科・英語・数学）

### 理科（物理、化学）

#### <出題の意図・ねらい>

##### 【第1問～第3問 物理】

###### 第1問

力学的エネルギー、力学的エネルギー保存の法則、摩擦力、弾性エネルギーに関する基礎的な理解力を問う。

###### 第2問

理想気体の状態変化と理想気体の混合を題材として、熱力学に関する基礎知識の理解度を問う。

###### 第3問

直流回路と電気振動の基礎問題。抵抗、コンデンサー、コイルからなる直流回路を理解しているか、コンデンサーとコイルの回路に生じる電気振動の周期、振幅を理解しているかを問う。

##### 【第4問～第6問 化学】

###### 第4問

問1及び問2共に、化学の基礎的な内容を理解しているかを問う問題である。

###### 問1

(1)～(3)は、化学Ⅰの基礎分野から、酸と塩基の反応（硫酸が2価の酸であることを含む）、化学反応式、中和の実際、化学量論の概念を問う内容を作題した。また、(4)では化学Ⅱの中から気体の体積変化の基礎であるシャルルの法則に関する知識を問うた。

###### 問2

多種類の陽イオンの分離に関する基礎を問う問題である。(2)では実際に実験をすれば知っている沈殿の色を質問した。(4)は、若干難しいが、より深い知識を問う問題である。

###### 第5問

電池および電気分解における電極およびそこで起こる反応に対する正確な知識や理解度を問うとともに、ファラデーの電気分解の法則や、溶液のモル濃度についての基礎力を計算を通じて測る問題である。

###### 第6問

問1は、完全燃焼からある炭化水素化合物の分子式を求め、その分子構造を予測する問題であり、問2は、芳香族化合物の物性からその構造を決定することができるかを確認する問題である。全体的に有機化合物の化学構造や反応の総合的な理解が求められる。

#### <答案の特徴と傾向>

##### 【第1問～第3問 物理】

###### 第1問

基礎的な知識を確認する問題であったため、全体的に高得点の答案が多く、満点の答案も多くみられた。物体がもつ力学的エネルギーや力学的エネルギー保存の法則を用いて物体の速さを求める問題、摩擦力や弾性エネルギーに関する基礎的問題は正答率が高かった。しかし、摩擦のある面を通過した直後

の物体の速さを求める問題、力学的エネルギー保存の法則を用いてばねの縮みを求める問題の正答率はやや低かった。

## 第2問

理想気体の状態方程式の理解度を問う問題の正答率は比較的高かった。しかしながら熱力学第一法則を応用して解く後半の問題の正答率はかなり低かった。

## 第3問

正解率は低かった。比較的良好に得点されていた設問はセ、ソ、ツであった。抵抗、コンデンサー、コイルからなる直流回路を十分に理解していないと考えられる答案が多かった。また、電気振動を勉強していないと思われる答案が多かった。

## 【第4問～第6問 化学】

### 第4問

#### 問1

- (1)化学量論的な考えが不十分なためか、 $2\text{NH}_3$ ではなく $\text{NH}_3$ 、また $(\text{NH}_4)\text{SO}_4$ の解答がかなりあった。
- (2)無色から薄赤を、薄赤から無色へ変化するとの解答が目立った。
- (3)及び(4)：計算問題の正解率は、(1)と(2)に比べて極端に低かった。(3)では当初の硫酸量(モル数)から水酸化ナトリウムにより消費された硫酸量を差し引き、残った硫酸量をアンモニアの量(モル数)として計算すればよいが、問題の記述順に式を組み立て独自の計算をする解答が多かった。(4)でもシャルルの法則の理解が不十分と思われる解答が多かった。

#### 問2

正解率は想定以上に良かった。以上を総合すると、単に記憶・知識を問う問題の正解率が高いものの、思考力や基本の理解度が不十分であることが見受けられた。問1の(1)は反応式の左右の原子数が同じであること、(2)では色の変化を見る時はどうすれば良いか(赤から無色では分かりづらい)を考えれば、間違える問題ではない。(3)は硫酸をリンゴとすれば、計算内容は小学校の算数レベルである。単に知識を教えるのではなく、基礎とそれを踏まえた考え方・思考力に力を入れた教育を強化する必要がある。また、問題を十分読めば防げる単純ミスもかなりあった。

### 第5問

#### 問1、2

電極の名称、電子と電流の流れなど電池に関する基礎知識が十分でないものが多く、特に問1では正答の選択肢が変則的であったためか、予想以上に誤答が多かった。

#### 問3

酸化還元を逆にしているケースが多々あり、また陽極における酸化反応のイオン反応式は誤答が目立った。

#### 問4

(1)、(2)とも正答の割合は概ね予想したとおりであった。解き方は基本的に理解しているにもかかわらず、計算ミス、桁の間違い、単位の書き忘れ等、ケアレスミスも多かった。また、近年ずっと続いている傾向であるが、記述問題に対する解答の仕方が式の羅列に終始しており、説明の日本語がほとんどともに記述できていない。受験生の国語力不足を痛感する。

### 第6問

問1については、分子式を求めるところまでは特に問題なかったが、指定された化合物の分子構造の予測は全体的に正解率が低かった。特に問2の芳香族化合物の物性と構造に関する理解が非常に足りない現象が見られた。また、今回の志願者は、できる人とできない人との差が極めて大きいことが見受けられた。

## 英語

### <出題の意図・ねらい>

#### 第1問

##### 問1

連続する副詞節の意味のつながりを正確に読み取る力を見る。

##### 問2

基本的語彙の知識があるか、文構造の分析が正確であるかを見る。

##### 問3

人称代名詞の指示対象を特定する力、倒置文の構造を理解しているかを見る。

##### 問4

名詞句の具体的内容を明らかにする力を見る。

##### 問5

前後の文脈から、適切な語彙を特定する力を見る。

#### 第2問

##### 問1

Our ability の繰り返しが直後にあることに注目し、内容をまとめる力を見る。

##### 問2

文中の語彙がどのような意味をもつか、文脈から判断して、読み取る力を見る。

##### 問3

やや複雑な英文の内容を理解する力の有無を見る。

##### 問4

等位節間の意味のつながりを正確に把握する力を見る。

#### 第3問

平易な日本語文を英語に訳す力を問う問題。語彙選択の適切さ、文法的な正確さなどを見る。

### <答案の特徴と傾向>

全体的に、語彙力の欠落、構文読解力の欠落、口語体の使用、漢字の誤字とひらがなの多用、内容語のみから機能語を無視しての文脈の勝手な創造などにまとめられる。

#### 第1問

問1 中間の譲歩節の取り間違えが多く、「旅行者かホームレスかを」と考え主節のtheyを誤解している受験者が9割以上に達した。Courteousもthoughtfulも正答率は3割以下である。

問2 文の構造などを無視し、'Japanese' 'homeless' というキーワードから「作文」している誤答が目立った。

問3 they の指示内容は7割以上が正しく解釈していたが、文修飾の副詞(reportedly)が正しく訳出できていない答案が目立った。文頭の否定語Norについては、全く訳出できていなかった。関係節の解釈についても、修飾内容を正確にとらえた答案は予想以上に少なかった。

問4 下線部ではなく、"getting benefits has become even more difficult"の部分を訳出したような解答が多

く見られた。

問 5 (A) の正答率に比べて、(B) の正答率が低かった。

## 第 2 問

問 1 2つの指示内容を箇条書きにして説明している答案が全体の 5 割程度と意外に少なく、受験者全体として論理的に整理して記述する力が欠如しているように思われた。構文的には、other than, enough to, engaged in などの解釈が正しくできていた答案がそれぞれ 2 割～3 割程度しかなかったのは驚きであった。

問 2 "secretary"を"secret"と混同している解答が非常に多かった。

問 3 まず最初の文を命令文だと解釈できていないため、支離滅裂な文脈の間違えが 9 割を超えた。Familiar を家族, citizen を町, imagine をイメージするなど基本的語彙が定着していない。特筆すべきは、日本語力のなさで「ようなもの」「なんとなく」などの意味のないつなぎことばを勝手に挿入している答案が散見され、助詞の「は」を「わ」と書いている答案が 2 枚、すべての文をひらがなで書いてあるものが 1 枚あった。

問 4 接続詞でつながれた 2 つの文の和訳をしてもらったが、主語・動詞を正しく取れていない解答が目立った。

## 第 3 問

よくあった間違い

- 1) 「変革期」を“evolution”として訳した受験生は特に多かった。
- 2) 代名詞が終始一致していない回答が多かった。(例: How **you** act and perform depends on whether **I** think times are hard or hard times brings chance)
- 3) 「行動と成長が違ってくる」では、“you”を主語とし、「違う」を“change”の他動詞として英訳した受験生も多数。
- 4) 「違ってくる」を“be difference”にした受験生も少なくはなかった。つまり動詞 ((be) different/differ/vary) と名刺 (difference) の使い分けができない。
- 5) 原文でもあまり明確ではないが、「～と考えるかで」の「で」を訳出した受験生が少なかった。“Depending on”というような英語にすればよいが、おそらく、「によって」イコール“depending on”としか学ばないため、「で」をどう訳せばよいか途方に暮れた受験生が多かったのであろう。

面白い回答・良くできた回答

- 1) 「入社する」に関しては、様々な英訳があったが、だいたいよく訳出された。“Join the company”や“enrolled in the company”など、かなり正確に訳された。なお、引用部分社長のスピーチということを踏まえ、“join **my** company”という風に訳した受験生もいた。

## 数 学

### <出題の意図・ねらい>

#### 第 1 問

2 次関数、確率、場合の数、実数、図形に関する問題。それぞれについて基本的知識が身についているかを問う。

#### 第 2 問

2 次方程式の解、円と直線、三角関数、指数関数、数列の和の各内容について出題。数学Ⅱ、数学 B に関

する基礎力を確認している。

### 第3問

微分法と積分法に関する問題。導関数の導出、及び導関数を利用した関数の最大値、最小値の導出、グラフ描画に関して理解しているかを問う。基礎的な定積分の算出法について理解しているかを問う。

### 第4問

2次元平面上の直線やグラフの移動・変換と行列の対応関係を理解しているか、変換の分解と合成を順序だてて考察できるかを問う。

## <答案の特徴と傾向>

### 第1問

基本的な知識が身につけているかを問う問題であったが、正答率にばらつきが生じた。問題ごとに比較すれば、図形に関する(5)の正答率が低く、二次関数に関する(1)の正解率もやや低かった。

### 第2問

問題全体の正解率は予想通りであり、基礎力を確認できたといえる。

- (1) 正解率はやや高かった。pとqを答える際に片方に計算ミスが見られた答案もあった。
- (2) 正解率はやや高かった。座標を答える問題では、値を一つしか記入していない答案が見られた。
- (3) 正解率はやや低かった。最大値、最小値およびそのときのxの値が全て答えられている答案が少なかった。
- (4) 正解率は低かった。対数の方程式の解が負にはならないのに、負の値も入れて間違えている答案が多かった。
- (5) 正解率は高かった。満点の答案が多くみられた。

### 第3問

- (1) 比較的正解率は高かったが、不注意な誤答もいくつか見られた。
- (2) 比較的正解率は高かったが、不注意な誤答もいくつか見られた。
- (3) おおよそのグラフの形状は正しく描かれていても、関数の変曲点の意味を理解していない解答が多々見受けられた。
- (4) 関数の絶対値の積分、及び $\int f(x)/f(x)dx$ をしっかりと理解していない解答が見受けられた。

### 第4問

問題全体の正解率は予想よりかなり低かった。行列の基礎的な操作やその意味についても理解が十分でない答案が多かった。

- (1)(2) 二次元平面上のシンプルな対称、回転に対応する行列は記憶しているようで、結果だけの記述が多かった。導出過程の記述では誤りが目立った。
- (3) 行列の合成による解を期待したが、正解答案の大半は(1)(2)の結果を使用せず、従来の解析手法によるものであった。
- (4) 行列Cはある直線に関する対称変換であるから、この変換を2回繰り返すと元の位置に戻ることは自明である。従って、計算するまでも無く $C^2=E$ 、 $C^{-1}=C$ であることが分かる。このことを指摘した答案は皆無であった。
- (5) 正解率は極めて低かった。正解の場合も、(3)と同様に行列を活用したものは少なかった。

## ◆ 国際環境工学部 後期日程（数学）

- 機械システム工学科（第3問 選択A、B、Cの中から2問選択）
- 情報メディア工学科（選択）
- 環境生命工学科（選択）

### <出題の意図・ねらい>

#### 第1問（第3問 選択A）

- (1)～(3) 2次多項式に関する基本的な演算能力を問う設問である。
- (4)、(5) 集合論・命題論理に関する最も基礎的な知識を問う設問である。

いずれも基礎能力の確認を狙っており、正確かつ迅速に解答することを期待する。

#### 第2問（第3問 選択B）

3次元空間内のベクトルに関する設問である。高度な知識や発想を問う問題ではなく、ベクトルに関する基本定理の理解、論理的な思考力、正確かつ迅速な計算能力が要求される問題となっている。

#### 第3問（第3問 選択C）

- (1) 指数関数の積分に関する問題であり、積分の基礎知識を持つかを確認する。
- (2)、(3) 絶対値、定積分の区間などの性質に対する理解度を確認する問題である。
- (4) 最小値問題であり、関数の微分、増減性を理解しているかを確認する。

### <答案の特徴と傾向>

#### 第1問（第3問 選択A）

出題内容は基本的な問題であり、正解率は高かった。誤答例としては、計算ミスに加え、2次方程式の解を書くべきところで因数分解を書いていたもの、不等号の向きを間違えたものが見受けられた。

また、因数分解で定数をくくり出さなかったり、 $\sqrt{12}$ などの平方根を使った解答が見受けられた。出題で既約でなければならないと明記していなかったため、前者については正解とし、後者については減点した。

#### 第2問（第3問 選択B）

基本的な知識と計算能力を問う問題であったため、全問正答率は比較的高く、満点も予想より多く見られた。ただし、ベクトルの基礎や直交の意味がわからなければ解けない問題であったため、出来、不出来がはっきり分かれた。

#### 第3問（第3問 選択C）

- (1) 積分の基本的な問題であり、正解率は高かった。
- (2)、(3) 絶対値関数に関する積分問題で、関数値の符号によって積分区間を定める計算にはミスが目立った。
- (4) 導関数を用いて関数の増減性を考察し、関数の最小問題を求める問題で、指数と対数関数の基本性質を活用していないため、正解率は低かった。

## ◆ 国際環境工学部 後期日程（物理）

- 機械システム工学科（第1問、第2問）
- 情報メディア工学科（選択）
- 環境生命工学科（選択）

### <出題の意図・ねらい>

#### 第1問

力学的エネルギー、力学的エネルギー保存の法則、衝突、運動量保存の法則に関する基礎的な理解力を問う。

#### 第2問

ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式、内部エネルギー、熱力学第一法則などの理解度と応用力を問う。

#### 第3問

直流回路と交流回路の基礎問題。オームの法則、キルヒホッフの法則、抵抗／コンデンサー／コイルを流れる交流電流とその両端の電圧の関係などを理解しているかを問う。

### <答案の特徴と傾向>

#### 第1問

基礎的な知識や理解力を確認する問題であったため、全体的に高得点の答案が多くみられた。物体がもつ力学的エネルギーを求める問題や力学的エネルギー保存の法則を用いて物体の速度を求める基礎的な問題の正答率は高かった。しかし、力学的エネルギー保存の法則と運動量保存の法則を用いて物体の速度を求める計算過程がやや複雑な問題の正答率は低い傾向があった。

#### 第2問

理想気体の状態方程式と熱力学の第一法則の基本的な理解度を問う問題の正答率は高かった。しかしながら、それらを応用して解く必要がある断熱変化の問題の正答率は低かった。また指数を含んだ式の変形をする際にミスをしたと思われるものが多かった。

#### 第3問

正解率は低かった。比較的良好に得点されていた設問はナ、ニ、ヌ、ネであった。キルヒホッフの法則を十分に理解していないと考えられる答案が多かった。また、交流回路を勉強していないと思われる答案が多かった。

## ◆ 国際環境工学部 後期日程（化学）

■エネルギー循環化学科

■環境生命工学科（選択）

### <出題の意図・ねらい>

#### 第1問

元素の基本概念から、分子及び結晶の構造と物性などの基礎能力を問う問題と、溶液及びイオン結晶に関する応用問題より、応用能力を評価する。

#### 第2問

反応の量的関係について、物質収支に着目して化学反応式を解く基礎能力と気体の体積について、モル、温度や圧力の関係に着目して答えを導く基礎能力を問う問題である。

また、電離平衡の基礎的知識をもとに、対象のイオン濃度を電離定数と水素イオン濃度を用いて一般的に表す応用能力の評価を行うものである。

#### 第3問

化学反応においては、物質およびエネルギーが変化しないことを定量的に理解しているかどうかをみた。また、基礎的な有機化学反応の進み方とそれに伴う構造変化を理解しているかを問う問題である。

### <答案の特徴と傾向>

#### 第1問

化学の基礎的知識を問う問題は、おおむね良くできていた。電荷バランス、pHについての知識を問う問題については、pHについてはおおむね良くできていたが、電荷バランスについては、誤りが多かった。イオン結晶に関する応用問題は、計算ミスなどの誤りが多く見られた。

#### 第2問

反応の量的関係について、物質収支に着目して段階的に化学反応を解いていく応用能力を問う問題は、白紙に近い答案が目立った。電離平衡に関する問題は、適切に答えられた答案が多かった。受験勉強には応用能力の向上を心がけることが必要と考える。

#### 第3問

1つ1つの反応を問う問題は、それぞれよく知られた反応を対象としていることもあり、一部を除いてよくできていた。ただし、化学の常識(たとえば炭素が4配位結合である)を理解していない回答者の答案は、まったく回答にならないもので、全く正解がない答案も多く見受けられた。

## ◆ 国際環境工学部 後期日程（生物）

### ■環境生命工学科（選択）

#### <出題の意図・ねらい>

##### 第1問

メンデルの法則や遺伝現象に関する遺伝のしくみを題材に、その理解力を問うことを意図としている。

- 問1 遺伝現象に関する基礎知識を問う問題
- 問2 メンデルの実験に関する基礎知識を問う問題
- 問3 遺伝の法則に関する説明問題
- 問4 補足遺伝子のしくみに関する説明問題
- 問5 複対立遺伝子のしくみに関する説明問題

##### 第2問

神経繊維における刺激の伝達に関する問題である。

- 問1 神経繊維の中を電気信号がどのように伝達されるかを問う設問である。
- 問2 神経繊維の中での電気信号の進行方向、およびシナプスでの電気信号の伝わり方を理解しているかを問う設問である。
- 問3及び問4 刺激の伝導速度の求め方を理解しているかを問う設問である。

##### 第3問

免疫に関する教科書の基礎的なレベルから、やや難易度が高い理解度を問う問題である。

- 問1 免疫に関する基礎的な用語の理解を問う。
- 問2及び問3 免疫の記憶にかんして抗体量の観点から理解しているかを問う問題。
- 問4 液性免疫と細胞性免疫や他の生体反応の区別を問う問題である。やや難易度が高い。
- 問5 抗体のメカニズムに対して理解しているかを問う問題。難易度が高い。

#### <答案の特徴と傾向>

##### 第1問

問1と問2は「遺伝現象に関する基本知識」を問う易しい問題であり、正解率は非常に高かった。問3は「メンデルの法則」、問4は「補足遺伝子のしくみ」に関する記述問題であったが、不正確な表現をしている解答やポイントとなる部分が十分に説明されていない解答が多くみられ、正解率が低かった。問5は「ABO式血液型」に関する問題であったが、理解度が高く、正解率は非常に高かった。

##### 第2問

問1と問2は神経繊維における刺激の伝達についての理解度を問う問題であったが、比較的よく理解されていた。問3は簡単な計算であるにもかかわらず、桁を間違えている答案が目立った。問4は神経から筋への伝達速度を考慮していない答案が多く、正解率は低かった。

##### 第3問

問1は免疫の用語の基本を問う問題であり、正解率は高かった。問2と問3は免疫記憶の現象とそのメカニズムの問題である。問3でほぼ正しい記述をしながら、問2でbを選んだ学生がかなりの数いた。免疫記憶について定量的な理解が求められる。問4は細胞性免疫と液性免疫の違いを問う問題である。両者を混乱している学生が半分以上いた。問5は抗体のメカニズムに対して理解しているかを問う問題であったが、正確に答えた解答は少なかった。

## ◆ 国際環境工学部 後期日程（面接）

### ■ 建築デザイン学科

#### <面接の意図・ねらい>

はじめに4～5名を1グループにして20分程度のグループ面接を行った。

- ・都会と田舎に住む場合のメリットとデメリットに関する質問
- ・他者への意見に関する質問

などに対し、回答を求めた。

次に10分程度の個別面接・口頭試問を行った。

- ・長所・短所に関する質問
  - ・快適と感じる空間に関する質問
  - ・本学科の教育目的・内容の特徴や特色などの理解度および学科への適合性を確認するための質問
  - ・数学、物理、化学、国語、英語に対する理解度を確認するための質問
- などに対し、回答を求めた。

#### <受験生の特徴と傾向>

グループ面接では、他者の考えに対して自分の意見をきちんと言える受験生とそうでない受験生がいた。個人面接では、快適と感じる空間について安全、色彩、通風、明るさ、広さ、緑など多様な回答があった。なお、ほぼ全員が、本学科の特徴や教育内容を調べてきており、本学科で学びたいという意欲が感じられた。数学等の理解度に関する口頭試問では、受験生がほとんど出来る質問もあったが、非常に正答の少ない質問もあった。また、最も基礎的な質問に回答できない学生もあり、受験生の中に差が見られた。

## 平成 22 年度入試の出題の意図、採点総評 < 推薦入試 >

### ◆ 外国語学部英米学科 推薦入試

#### I 全国推薦

##### < 出題の意図・ねらい >

英語のインタビューにおいては、基本的なコミュニケーションスキルを有しているかどうか、具体的な事柄について、きちんと自分の意見を述べるができるかどうか、問われた内容を正しく理解し、自然な英語で答えることができるかどうかを問うた。

##### < 傾向 >

すべての受験生が、かなり高いレベルでの受け答えをすることができた。中には面接者が驚くほど流ちょうな英語で、高度な内容の質問に正確に答えることができる学生もいた。具体的で込み入った内容の質問に対しても、ほぼすべての受験生が適切に答えることができた。

#### II 地域推薦

##### < 出題の意図・ねらい >

##### 問 1

英語によって書かれた論理的な内容のエッセイ全体の意味を、限られた字数の日本語できちんとまとめる問題で、基本的な英語の読解力と、内容の理解力を問うた。

##### 問 2

比較構文を、文法的に正しく把握できているかを問うた。

##### 問 3

比喩的に表現された文章の理解を問うことで、単にその文を機械翻訳的に理解できているかではなく、パラグラフ全体、文章全体の中でこの一文が理解されているかを問うた。

##### 問 4

文章の内容を踏まえて、自分のことを英語で説明する力を問う問題で、基本的文法力、語彙力、表現力を問うた。

##### < 答案の特徴と傾向 >

##### 問 1

内容が将来の職業選択に関するものであるもので、受験生にとって身近なテーマであったためか、概ね文章全体の内容は理解できていた。

##### 問 2

ほとんどの人が亡いようは把握しているが、日本語の表現手段で差がついている。キーワードである do best (better)を中心に日本語にまとめると結論から先に述べた要旨ができる。

### 問3

「丸い穴に自らを押し込もうとしている四角の杭」という比喩表現が理解できていない答案がかなり数見受けられた。

### 問4

内容が自分のことに関わるものであったためか、比較的書きやすかったのではないかと思う。全体的に質、量の両方の面でよくできていたと思う。しかし、もっとも基本的な文法力、語彙力、慣用表現に関する知識が欠如している答案も散見され、そのような答案はかなり低く評価された。

## ◆ 外国語学部国際関係学科 推薦入試

### <出題の意図・ねらい>

今年度は、経済のグローバル化の影響下で世界の多くの国々で起こっている社会保障と雇用の問題について、日本を事例として検討を行っている英文と日本語を資料として取り上げた。問1では、的確に意味内容を把握する能力を問うた。問2では、二つの資料を読み、先述の問題に対する日本の対応について深く考察し、自らの意見や考えを論理的に叙述する能力を問うた。国際関係を学ぼうとする学生の資質をも問う内容となっている。

### <答案の特徴と傾向>

#### 問1

問1では、英文資料を500字以上600字以内で要約することを求めた。解答には筆者の意図を正確に把握することができたものもあった。その一方で、文中に出てきた social security (社会保障) 等の基本用語を訳することに苦勞するものも目立った。また、被雇用者を非雇用者と書くなど、日本語の表現力が十分ではない解答も散見された。

#### 問2

各資料の主張とその違いを読み取り、そこから安定した社会を築くための課題を導き出すという設問であり、設定された条件に即した解答が求められる。資料①については、社会保障の拡充による経済効果に言及しないものが目立った。長い英文を読みこなし、意味を正確に理解する力を向上させる必要がある。資料②については、内容を読み取れたものが多かったが、中には筆者の主張を正反対に理解しているものも散見された。課題に関しては、自分の(時として誤った)知識・理解に基づくものも見られたが、資料をきちんと読みこなす力が重要である。

## ◆ 経済学部経済学科 推薦入試（小論文）

### <出題の意図・ねらい>

2008年の世界経済フォーラム（ダボス会議）でマイクロソフト会長ビル・ゲイツが講演した内容の一部を題材として出題した。

ゲイツ氏は、現代の資本主義社会において、技術の進歩により、人々の生活は以前より豊かになったが、その一方で、貧富の格差がいまだに存在するため、この問題に取り組む必要があると述べる。そして、この問題に取り組むアプローチとして、政府やNPO、企業が協力して資本主義をよりよいシステムへと変革させる「創造的資本主義」というシステムの設計をゲイツ氏は訴える。

設問では、受験生が問題文を読んで「創造的資本主義」を理解できるか、また「創造的資本主義」を実践するための具体的なアイデアを自ら考え、それを文章で表現できるかを問うた。

### <答案の特徴と傾向>

#### ・問1について

問題文に登場するキーワード、「純粋な資本主義」と「創造的資本主義」について理解し、適切に文章で要約することができるかを確認する問題である。

大半の受験生がそれぞれの資本主義の特徴を問題文に即して解答していた。しかし、問題文の内容を十分に理解しないまま、各資本主義の説明をしている答案もあった。

#### ・問2について

世の中の経済格差を無くし、貧しい人々の生活を改善することを目指す「創造的資本主義」を実現するためのアイデアや事例を述べることを通じて自分の意見、考えを論理的に解答できるかをみた問題である。しかしながら、これらの要件を満たす解答は極めて少なかった。

問2を解答するために必要な要件の一つとして、「創造的資本主義」は利潤追求だけでなく、貧しい人に対する奉仕と奉仕に対する社会からの評価も考慮した社会という点を理解する必要がある。この点に留意しつつ、そのような社会を実現するための具体的なアイデア、事例を解答の際に述べる必要がある。問題文では、いくつかの事例が紹介されていたので、それらの事例を参考にすれば、解答することは困難ではないと思われる。

小論文では、問題文を読んで、内容を理解するだけでなく、その内容をもとに自分の頭の中で具体的なイメージができるほどの読解力が求められる。そのためには、様々な経験と知識を深める必要がある。特に、様々な社会問題、経済問題を新聞、ニュース等で知り、その時に、「なぜそのような問題が起き、どうすれば解決可能なのか」を普段から考えてもらいたい。

## ◆ 文学部比較文化学科 推薦入試

### <出題の意図・ねらい>

#### 問題 I

昨今の“Cultural Globalization”の傾向に関する英文を読み、受験生に考察を促すことをねらいとしている。

問1 問われている内容を正確に理解したうえで、理由として適切な箇所を把握し、筆者の論点を規定の字数内に要約できているかどうかを見ることで、受験生の英文読解力、英語語彙力、日本語の文章力を問うた。

問2 “Cultural Globalization”の良い点と悪い点、それぞれを規定の字数内に適切に要約できているかを見ることで、受験生の英文読解力、日本語の語彙力・文章力を問うた。

問3 英文全体を踏まえたとうえで、問われている内容に最もふさわしい箇所に焦点を当て、筆者の論点を規定の字数内に要約できているかどうかを見ることで、受験生の英文読解力、英語語彙力、日本語の文章力を問うた。

問4 “Cultural Globalization”の問題に関して、受験生に身近な問題として捉えさせ、筆者の考えを踏まえつつ英語で自分の意見を書かせることにより、受験生の応用力、英語語彙力、英文法の習熟度、論理的な英文構成能力を問うた。

#### 問題 II

出題文章は、日本語と外国語の比較をとおしてみえてくる感性の違いを考察するものであり、比較文化の要となる言語と文化への関心の高さを問うことを意図した。問1では、文章全体を読解する力を問うために要約を課し、筆者の主張の展開過程が把握できているかを試した。また、問2では、二つの立場からいずれかを選び、それを支持する理由を述べるスタイルによって、テーマに対する関心の高さと、自らの意見を説得的に相手に伝える力がどのくらいあるかを試した。

### <答案の特徴と傾向>

#### 問題 I

##### 問1

後の議論の前提になる部分であり、素直に第1段落と第2段落を要約すれば満点になる問題であるため、約20%の者が、8割以上得点できていた一方、第2段落の内容にしか触れず、どのように状況が変化したかの説明になっていなかったため、半分程度しか得点できない例も多かった。また日本語の文章としてのミスも目立った。

##### 問2

本文に即した「筆者の考える cultural globalization」の良い点、悪い点ではなく、自分勝手に類推をして書いているものが比較的多かった。直訳調であるために、日本語の表現がおかしいものも目立った。

##### 問3

筆者の文化のグローバル化の見解は、おもに問題文の最後の二つのパラグラフにまとめられている。やや英

文が難しかったためか、総じて論理的にまとめられた解答例は、きわめて少なかった（10%）。本文の一部をうまく翻訳しているが、続く文章が直訳風で誤読があるために、全体として論旨に一貫性がない解答がほとんどであった。

#### 問4

各品詞の基本的な用法、受動態や進行形の形態、三人称単数現在の動詞に付随するsの用法など、極めて基礎的な文法事項に関して誤った答案が散見した。基本単語のスペルミスも目立った。また、設問が問うている内容に対応していない解答が書かれた答案も、多く見られた。

### 問題II

#### 問1

- ・約50%の解答は、良以上のものだった。
- ・悪い解答例としては以下のものが目立った。論理展開の逆転或いは省略、文中の具体例の多用、間違った解釈、句点が全くないワンセンテンス。

#### 問2

- ・設問の「国際標準化」を「国際標準語化」と誤解した解答が多かった。
- ・「不要」な具体的理由ではなく、「アイデンティティ」や「誇り」という抽象的な感情を述べた解答が多かった。
- ・言語の「国際標準化」の意味をよく踏まえていない解答が多かった。

## ◆ 文学部人間関係学科 推薦入試

### <出題の意図・ねらい>

集団感染症の視点から人類の歴史について述べられた英文と日本語を読み、現代社会の特性と感染爆発の危険性についての考察をおこなう。

感染症については昨今話題性の高いトピックスであるため、内容の理解は難しくないだろう。しかし、それをもとに人類史を説明している著者の論をどこまで読み取れるかが課題のひとつとなる。

問1は、基本的な英文が読めているかどうかを評価した。

問2では、全体の論旨と文脈が読めていることが求められる。本文には「ユーラシア大陸を起源とする病原菌は、世界各地で、先住民の人口を大幅に減少させた」とある。日本においては、大陸が近く、歴史的に病原菌との頻繁な接触がおきている。その点では「衛生状態がよかった」「鎖国や島で孤立していた」という理由だけでは不十分。

問3では、私たちが暮らす現代社会の特性を踏まえた上で、感染症への対策を論理的に記述できているかを基本評価とし、さらに具体案としての有効性や独創性がポイントとなる。また問題文では、個人的な対策ではなく社会的な対策について論じることが求められている。

## <答案の特徴と傾向>

### 問1

「農耕生活による定住化」、「(人口が周密した)都市の台頭」、「交易の発展」など、英文の正確な読解と、問いに沿った的確な引用を評価した。おおむね解答は出来ていた。

### 問2

提示されている日本文の文脈に沿った理由であることが重要である。本文には「ユーラシア大陸を起源とする病原菌は、世界各地で、先住民の人口を大幅に減少させた」とあるので、「衛生状態がよかった」「鎖国や島で孤立しており接触がなかった」という理由では論旨が逆になってしまい不十分。「ユーラシア大陸に近く、歴史的に頻繁に病原菌にさらされており、免疫を形成していたから」というあたりまで踏み込まなくては、高得点は難しい。

本文を十分読み込んでおらず、既存の知識で解答したものが多かった。逆説的な論旨を理解していない解答が目立ち、得点に差がついた。こうした設問では提示された文章をしっかりと読み、内容を理解した上で解答することが大切である。

### 問3

危険性については、現代社会の特性をふまえた感染爆発の危険性に触れてあること。対策については、具体的な案について、効果もあわせて論理的に書けていればよい。ただし問いでは個人的な対策ではなく社会的な対策について述べられていることが求められている。

全般的に期待された解答に達していないものが多かった。

感染症に対する対策とは関係のない解答があり、そもそも問題文の主題を理解していないものが散見された。また社会対策の意味を取り違えており、個人的な対策に始終してしまう例が目立った。全体的に「社会」という概念の理解が希薄な印象をうけた。

問題文では「アイデアを考え」と誘導しているが、高校で習ったことやあらかじめ知っていること、新聞やテレビなどの報道内容やすでにおこなわれている対策について述べているものが多く、問題文をよんで新たに考えたアイデアについて論じているものは少なかった。既存のアイデアをこえるユニークな視点を入れていかないと、得点の差はつきにくい。

小論文では、問題文をよく読み、出題の意図にしたがった解答を書くことが大切である。模擬試験などでふだんから書き慣れたテーマに無理に持ち組む解答は、問題文の主旨から外れてしまうことが多く、採点は厳しくなる。さらにステレオタイプな解答は埋没してしまいがちであり、高得点は望めない。むしろ他の人とはひと味違う論点を示すことが求められる。

## ◆ 法学部 推薦入試

### <出題の意図・ねらい>

#### 【出題文選択の背景】

出題文の出典は、沼上幹『組織戦略の考え方—企業経営の健全性のために』（ちくま新書、2003年）である。

1970年代末から1980年代にかけて日本及び日本企業礼賛論が注目を浴びていた。「日本型経営が全面的に優れている」というのが世の中の論調であった。ところがそれから数年後、「バブル」が崩壊すると、「日本企業はあらゆる点でだめ」であり、「アメリカ企業があらゆる点でモデル」として君臨するようになった。しかし、さらにその後アメリカで「バブル」が崩壊すると、論調は一転し、アメリカ企業もまたモデルたり得ないことが明らかとなった。礼賛も否定も、いわば外側から見た日本型組織を論評しているだけであって、「いろいろ問題点がある組織をどうやって運営していけばよいのか」という疑問に答えるものではないという限界がある。筆者は、「コア人材の長期雇用を前提とすること」を日本の組織の本質的な部分と理解し、それを維持しながら経営していく方策を考えようとする。

出題文は、「組織の中のフリーライダー」と題する章から採ったものである。「公共財・集合財」は、その性質上、個々には直接の費用負担なしに利益を享受することも生じ得る。筆者は、このようなそれ相応の負担なしに利益を享受する者を「フリーライダー」と呼び、労働組合を例にとって問題を論じている。

筆者の関心は企業組織におけるフリーライダー問題の解決策にあるが、筆者が例示するように、フリーライダー問題はいろんな場面で見るができる。設問は、これをどのように考え、どのような解決策を提示できるかを問うものである。

#### 【受験生に何を望むのか】

第一に、文章の読解力・理解力が求められる。筆者のいうフリーライダー問題について、筆者の問題意識を十分に理解した上で、その主張のポイントをまとめることが必要である。

第二に、筆者の主張を踏まえた上で、フリーライダー問題についての自分の考えを論理的・説得的に述べることが求められる。どのような場面に注目して論じるか、どのような解決策を示すか等、様々な論じ方が可能である。社会経験のほとんどない多くの受験生にとって問題を具体的に論じることは必ずしも容易ではないかも知れないが、出題文を手掛かりとして自論を説得的に展開することが期待される。

### <答案の特徴と傾向>

設問は、まず「筆者の主張を要約すること」を求めている。したがって課題文における筆者の主張の要旨をまとめなければならない。この点はおおむねよくできていたと思われるが、中には主張の趣旨を正確にまとめることができないもの、まとめることだけで答案の大半の分量となっているもの等がみられた。

設問は、次に課題文に示された問題の「解決策を提示すること」を求めている。課題文において筆者は解決策を示していないので、筆者の主張を理解した上で、各自が解決策を創造しなければならない。したがって、解決策には、要約の適切さが反映されることになる。他方で「解決策」は、想定される組織の規模や性質に応じてさまざまなものが考えられるので、それがどの程度に論理的・説得的であるかが評価を分けるポイントである。高く評価されるものもある反面で、論述自体から筆者の主張をよく理解していないことがうかがわれるもの、挙げる例が筆者の主張に照らして適切とは思われないもの等がみられた。

## ◆ 国際環境工学部エネルギー循環化学科 推薦入試（総合問題・面接）

### 総合問題

#### <出題の意図・ねらい>

##### 第1問

レアメタル含有廃棄物を資源化することを題材として、思考力の柔軟性とそれを表現する文章力を観る問題を出題した。加えて、物質の分離法に関する基礎的な化学知識を問うた。

##### 第2問

化学Ⅰの範囲の標準的な難易度の問題を出題した。

問1 ガソリンをイソオクタンとして自動車のエンジンでの燃焼の化学反応式、反応の量論関係を問う問題を出題した。

問2 2台の自動車の燃費から、100km 走行するのに必要なガソリン量を計算する問題を出題した。

問3 ガソリン（イソオクタン）の完全燃焼の化学反応式から、2台の自動車が100km 走行するのに必要な酸素量を計算し、空気中に含まれる酸素の組成割合から必要な空気量を計算する問題を出題した。

問4 燃焼の化学反応式から、2台の自動車が100km 走行した場合の排気ガスに含まれる二酸化炭素量を計算する問題を出題した。

#### <答案の特徴と傾向>

##### 第1問

問1 概ね正答であったが、「混合物と化合物」および「純物質と単体」を誤解した解答も見受けられた。

問2 「使用済み小型電子電気機器をレアメタルの資源とするための問題点」という題意に沿っていない解答が多数見受けられた。

##### 第2問

問1 殆どの受験者が正解であった。

問2 殆どの受験者が正解であった。

問3、問4 近年受験生の計算力不足が指摘されているが、本問題への答えは、それを如実に表す結果となった。計算自体は2～3桁程度の四則演算のみであるにもかかわらず、正解者は、半分を割っている。これは決して問題の内容が高度すぎたためではなく、計算問題が苦手なだけであろう。加えて、全く理解できていないのか、使用するガソリン量( $D$ )をなぜか22.4  $l$ で割って、「何かの物質質量」を出そうとした答案も数件見られた。「化学以前」の問題である。

### 面接

#### <面接内容>

本学への志望動機や将来構想、大学生活で取り組んでみたいことを各自にプレゼンさせた。また、化学や環境、およびエネルギー問題に関する基礎的な質問を行い、基礎学力、意欲、コミュニケーション能力等の項目について評価した。

### <受験生の特徴と傾向>

意欲やコミュニケーション能力等に関しては概ね良好であり、加えて共通の質問項目については、各自共準備をしていたと思われ、概ね良好であり、特段の優劣はなかった。総じて、まじめさや意欲に関してはほぼ全員から感じることができた。基礎学力に関する質問については、エネルギー問題や環境問題に関連して質問したが、回答に窮する受験者も見受けられた。

### 配点

第1問

問1 16点

問2 14点

第2問

問1 5点

問2 5点

問3 10点

問4 10点

### ◆ 国際環境工学部機械システム工学科 推薦入試（総合問題・面接）

### 総合問題

（第1問、第2問 数学）

### <出題の意図・ねらい>

高校で履修した基本事項の理解度を見るため、教科書の練習問題レベルの問題を出題した。

第1問

数学 I、II、A、B の範囲から、幅広く基礎事項を理解しているかを問う。

第2問

2次関数のグラフをもとに、3角形の面積の最大値を求める問題を出題した。面積の最大値を求める際に、微分が正しく計算できるか、有限区間を考慮した最大値が正しく求められるかを問う。

### <答案の特徴と傾向>

第1問 基本的な問題であるが正解率はやや低かった。

問1 正解率は高いが、計算ミスも散見された。

問2 正解率は低かった。

問3 正解率は高かった。

問4 必要条件と十分条件を正しく理解していない答案も少なくなかった。

問5 正解率は予想より低かった。

問6 正解率はやや低かった。

第2問

問1  $\triangle POH$  が直角三角形であることを認識できていない答案も少なくなかった。

問2 正解率は予想よりも低かった。問1の解答から有限区間でのグラフを正確に描けていないと思われる答案も散見された。

(第3問 物理)

### <出題の意図・ねらい>

- 問1 力学的エネルギーの保存則、力の分解、放物運動の理解力を確認する問題とした。
- 問2 導体の電気抵抗の導出、抵抗線の直列および並列接続とオームの法則の理解力を確認する問題とした。
- 問3 気体に与えられた熱と気体のする仕事の理解力を確認する問題とした。

### <答案の特徴と傾向>

- 問1 力学的エネルギーの保存則から物体の速度を得るのに苦労しているようだった。ばねの力と弾性エネルギーとの違いが理解できていない解答も目立った。
- 問2 最初の問いの抵抗値を求めることはできていた。しかし抵抗ではなく抵抗線での出題だったため、分岐点での電流と電圧の導出が難しいようだった。
- 問3 ピストンの移動による内部エネルギーの変化と行った仕事との関係がうまく理解できていないようだった。筆記での解答を求めたが、「R」と「k」とが判別しにくいものがあった。

## 面接

### <面接の形態>

受験生18名(欠席1名、後日追試予定)に対し、1人7分程度の個人面接を実施した。

### <面接内容と意図>

#### 1) 志望理由等に関する質問

本学本学部の機械システム工学科を志望する動機、推薦入試に応募した理由、将来の進路などについて質問し、学科についての理解度、学習意欲、学科への適合性などを見極める。

#### 2) 物理と数学に関する質問(口頭試問)

機械工学を学ぶ上で不可欠な基礎学力が身につけているかを確認するため、物理と数学の簡単な問題を示し、物理は口頭で説明させ、数学は黒板を使用して解答させる。

### <受験生の特徴と傾向>

面接を受ける順番が後の受験生は待ち時間が長くなる欠点はあるが、個人面接では各受験生の人柄・態度などを平等に観察することができた。

志望動機として、「環境」と「ものづくり」を挙げた受験生が多かった。事前に十分練習してきたことが感じられたが、自分の言葉で話していると思われる受験生は少なく、少し物足りなかった。元気がよく受け答えできる生徒が推薦されているという印象だった。予想される質問であるため、評価に大きな差は付かなかった。

学科を選択する基準として、学科のパンフレットやホームページを参考にしていることが多く、オープンキャンパスでの好印象を挙げた受験生もいた。今年は、教員の研究テーマに関して調べている受験生が数名いた。

数学の口頭試問の正解率は高かった。物理は、「考え方」を説明できない受験生が目立ち、評価に差が付いた。

## ◆ 国際環境工学部情報メディア工学科 推薦入試（総合問題・面接）

### 総合問題

（第1問、第2問 数学）

#### <出題の意図・ねらい>

高校で履修した基本事項の理解度を見るため、教科書の練習問題レベルの問題を出題した。

第1問

数学 I、II、A、B の範囲から、幅広く基礎事項を理解しているかを問う。

第2問

2次関数のグラフをもとに、3角形の面積の最大値を求める問題を出題した。面積の最大値を求める際に、微分が正しく計算できるか、有限区間を考慮した最大値が正しく求められるかを問う。

#### <答案の特徴と傾向>

第1問 基本的な問題であるが正解率はやや低かった。

問1 正解率は高いが、計算ミスも散見された。

問2 正解率は低かった。

問3 正解率は高かった。

問4 必要条件と十分条件を正しく理解していない答案も少なくなかった。

問5 正解率は予想より低かった。

問6 正解率はやや低かった。

第2問

問1  $\triangle POH$  が直角三角形であることを認識できていない答案も少なくなかった。

問2 正解率は予想よりも低かった。問1の解答から有限区間でのグラフを正確に描けていないと思われる答案も散見された。

（第3問 物理）

#### <出題の意図・ねらい>

問1 力学的エネルギーの保存則、力の分解、放物運動の理解力を確認する問題とした。

問2 導体の電気抵抗の導出、抵抗線の直列および並列接続とオームの法則の理解力を確認する問題とした。

問3 気体に与えられた熱と気体のする仕事の理解力を確認する問題とした。

#### <答案の特徴と傾向>

問1 力学的エネルギーの保存則から物体の速度を得るのに苦労しているようだった。ばねの力と弾性エネルギーとの違いが理解できていない解答も目立った。

問2 最初の問いの抵抗値を求めることはできていた。しかし抵抗ではなく抵抗線での出題だったため、分岐点での電流と電圧の導出が難しいようだった。

問3 ピストンの移動による内部エネルギーの変化と行った仕事との関係がうまく理解できていないようだった。筆記での解答を求めたが、「R」と「k」とが判別しにくいものがあった。

## 面接

### <面接内容>

- (1) 学科の教育内容を理解しているか、明確な志望理由について問う。
- (2) 高校で一生懸命にやったことについての質問は、高校時代に各自の設定した目標とその達成に向けた計画、到達過程を見るもの。
- (3) 数学の基本問題に関する口頭試問では必要に応じてヒントを与えて、総合問題で確認できない各自の持つ本来の実力を引き出そうとした。

### <受験生の特徴と傾向>

- (1) 学科の教育内容と志望理由については、明確な回答が得られ、時間を掛けて推敲した文章を繰り返し練習したことがうかがえる。目標をはっきりと設定した回答も多く感じられたが、柔軟に物事を判断できるように広い視野で勉強することも必要と思われる。
- (2) この質問についても、想定されたものと思われる。高校時代の部活や学校行事に熱心に取り組んだ内容を聞くことができた。
- (3) 口頭試問については、個人差があり、ヒントによって解法を思い出す生徒と逆に緊張してうまく説明できない生徒に分かれた。

## ◆ 国際環境工学部建築デザイン学科 推薦入試（総合問題・面接）

### 総合問題

（第1問 数学）

#### <出題の意図・ねらい>

高校で履修した基本事項の理解度を見るため、教科書の練習問題レベルの問題を出題した。

第1問

数学 I、II、A、B の範囲から、幅広く基礎事項を理解しているかを問う。

#### <答案の特徴と傾向>

第1問 基本的な問題であるが正解率はやや低かった。

問1 正解率は高いが、計算ミスも散見された。

問2 正解率は低かった。

問3 正解率は高かった。

問4 必要条件と十分条件を正しく理解していない答案も少なくなかった。

問5 正解率は予想より低かった。

問6 正解率はやや低かった。

（第2問 物理）

#### <出題の意図・ねらい>

問1 力学的エネルギーの保存則、力の分解、放物運動の理解力を確認する問題とした。

問2 気体に与えられた熱と気体のする仕事の理解力を確認する問題とした。

### <答案の特徴と傾向>

問 1 力学的エネルギーの保存則から物体の速度を得るのに苦労しているようだった。ばねの力と弾性エネルギーとの違いが理解できていない解答も目立った。

問 2 ピストンの移動による内部エネルギーの変化と行った仕事との関係がうまく理解できていないようだった。筆記での解答を求めたが、「R」と「k」とが判別しにくいものがあった。

(第3問 総合)

### <出題の意図・ねらい>

問 1 与えられたテーマに対して的確に題意を捉え、自らの見解を述べているかを問う問題である。特に、論理的思考力、文章表現力、発想力を見る。

問 2 問 1 で自ら述べた見解にそって、自らの提案を自分なりに図解しようとしているか、題意にそった回答をしているかを問う問題である。特に、創造力、二次元及び三次元的な表現力、立体的感覚等の総合的な造形力を見る。

### <答案の特徴と傾向>

問 1 今年度は問題の条件を限定することによって、どの程度案を発展させ、的確に自らの案を説明できるかどうか期待したが、基本的な文法が間違っている答案も少なからず見受けられた。しかし、提案の内容は創造的なものも多く、興味深いものも多かった。的確な文章表現能力が望まれる。

問 2 問題の条件を限定したために、題意の取り違えはほとんどなかった。中には素材の特性に対する考慮が少ない、寸法と図示されたものがまったく異なる答案もあったが、これらは常識的な判断の問題であるので注意して欲しい。特殊な解答ではなくとも、創造的な解答が見られたのは良かったと考えている。

## 面接

### <実施方法等>

10分程度の個別面接を行った。

- ・高校生活の充実度や実績・積極性に関する質問
- ・地球環境問題への関心度に関する質問
- ・本学科の教育目的・内容の理解度および学科への適合性を確認するための質問
- ・「建築」に対する興味や意識の高さを確認するための質問
- ・本人の長所を確認するための質問

などに対し、回答を求めた。

### <受験生の特徴と傾向>

本人の意見を的確に述べることができる受験生と予め準備していた回答だけしか述べることができない受験生がいた。地球環境問題への関心度も高い受験生が多かった。学科の特徴やカリキュラム内容及び「建築」に対する興味については、ホームページ等によって詳しい情報を入手しており、多くの受験生から本学科で学びたいという意欲が強く感じられた。建築に関する知識はインターネット等でよく調べている学生が多かった。中には実際に見てきた建物について言及できる受験生もいた。

## ◆ 国際環境工学部環境生命工学科 推薦入試（総合問題・面接）

### 総合問題

（第1問 必須）

#### <出題の意図・ねらい>

第1問

レアメタル含有廃棄物を資源化することを題材として、思考力の柔軟性とそれを表現する文章力を観る問題を出題した。加えて、物質の分離法に関する基礎的な化学知識を問うた。

#### <答案の特徴と傾向>

第1問

問1 概ね正答であったが、「混合物と化合物」および「純物質と単体」を誤解した解答も見受けられた。

問2 「使用済み小型電子電気機器をレアメタルの資源とするための問題点」という題意に沿っていない解答が多数見受けられた。

（第2問 A、B、Cから1題選択）

#### <出題の意図・ねらい>

第2A問

化学Iの範囲の標準的な難易度の問題を出題した。

問1 ガソリンをイソオクタンとして自動車のエンジンでの燃焼の化学反応式、反応の量論関係を問う問題を出題した。

問2 2台の自動車の燃費から、100km 走行するのに必要なガソリン量を計算する問題を出題した。

問3 ガソリン（イソオクタン）の完全燃焼の化学反応式から、2台の自動車が100km 走行するのに必要な酸素量を計算し、空気中に含まれる酸素の組成割合から必要な空気量を計算する問題を出題した。

問4 燃焼の化学反応式から、2台の自動車が100km 走行した場合の排気ガスに含まれる二酸化炭素量を計算する問題を出題した。

第2B問

動物の発生のおもしろさを題材として生物分野の基礎知識を問う問題である。ウニの受精と初期発生を観察を通して発生の過程や器官の形成を正しく理解できているか、また発生を調節する卵の能力についても正しく理解できているかどうかを評価する問題である。

第3C問

問1 力学的エネルギーの保存則、力の分解、放物運動の理解力を確認する問題とした。

問2 導体の電気抵抗の導出、抵抗線の直列および並列接続とオームの法則の理解力を確認する問題とした。

問3 気体に与えられた熱と気体のする仕事の理解力を確認する問題とした。

## <答案の特徴と傾向>

### 第2A問

問1 殆どの受験者が正解であった。

問2 殆どの受験者が正解であった。

問3、問4 近年受験生の計算力不足が指摘されているが、本問題への答えは、それを如実に表す結果となった。計算自体は2～3桁程度の四則演算のみであるにもかかわらず、正解者は、半分を割っている。これは決して問題の内容が高度すぎたためではなく、計算問題が苦手なだけであろう。加えて、全く理解できていないのか、使用するガソリン量( $D$ )をなぜか22.4lで割って、「何かの物質質量」を出そうとした答案も数件見られた。「化学以前」の問題である。

### 第2B問

問1～問4は、生物の受精卵の発生についての知識を問う問題である。図示された生物がバフンウニであることを理解し、派生する問題に正しく答えた解答例が多く見受けられた。また、問5はバフンウニを含む三杯葉性の動物についての知識を問う問題であり、問6は調整卵とモザイク卵の違いについて問う問題であったが、どちらも正答率は高かった。

### 第3C問

問1 力学的エネルギーの保存則から物体の速度を得るのに苦労しているようだった。ばねの力と弾性エネルギーとの違いが理解できていない解答も目立った。

問2 最初の問いの抵抗値を求めることはできていた。しかし抵抗ではなく抵抗線での出題だったため、分岐点での電流と電圧の導出が難しいようだった。

問3 ピストンの移動による内部エネルギーの変化と行った仕事との関係がうまく理解できていないようだった。筆記での解答を求めたが、「R」と「k」とが判別しにくいものがあった。

## 面接

### <面接形式と内容>

基礎学力、意欲、コミュニケーション能力、人物・その他の各項目について、5人1組となり20分程度の集団面接を実施した。

### <受験生の特徴と傾向>

環境問題に対する質問に関しては、十分に準備してきたものと思われ、多くの受験生は質問に対して適切に回答していた。しかしながら、環境問題に関する自然科学的な知識に関する問いにはほとんど答えることができず、化学、物理、生物などの基礎学力が欠如している受験生が目立った。